



## 鳥の嗅覚とカラスの知能

カラスが食べ物やごみの臭いに寄って来ると言われることがよくありますが、実は、陸生の鳥は臭いを感じることはほとんどないといわれています。

空中では地上ほど臭いは強くなく、臭いに頼らずに生活しているため、鳥は嗅覚器官が退化し、まったくゼロではないものの、臭いを感じるものがほとんどなくなりました。



ただ例外もあり、ひとつがよく知られたニュージーランドのキーウイです。夜行性の飛べない鳥キーウイは地上で生活していますが、視力が衰えた代わりに嗅覚が発達し、嘴の先の鼻で土中の虫などを探して食べます。

キーウイは鳥でありながら哺乳類のような生活を送っています。

ちなみに、鳥の視覚が発達しているのは、上空から目で見て地上の餌を探すためであり、飛ぶために少しでも身を軽くするために鳥は「無駄な」器官が退化したのですが、この話はまた機会をあらためて。

アメリカ大陸に生息するヒメコンドルも嗅覚が発達しています。コンドル類は主に動物の死体の肉を食べていますが、ヒメコンドルは、羊の死体を小屋の中に隠して臭いだけが漏れるようにしたところ、その臭いをかぎつけて小屋の近くにやって来たという話があります。

繰り返す、カラスは臭いにつられて食べ物やごみに寄って来るわけではありません。

●ではなぜカラスはゴミに寄って来る？ (上写真: ハシブトガラス)

カラスがゴミに寄って来るのは、人の行動を観察し考えて学習しているからです。

カラスは、ゴミ収集日になると人が袋を持って次々とゴミ置き場にやって来る様子を見て、これは何かあると考え、ゴミ袋の中をさぐると食べ物にありつきます。袋の中にある食べ物を目で見て分かることもあるでしょう。以降、人が次々と袋を持って来る日には食べ物があると学習してゴミ置き場にやって来るようになるのです。

旭山では展望台で何かを食べているとカラスに横取りされるなんてことも起きていますが(困りますが)、それも、人の行動を見て考えているからであって、カラスの知能が発達していることには驚かされます。



■ただし、鳥の世界も未知なことが多く、カワラバトや水鳥は嗅覚がいくらか発達していることが示唆される研究結果も報告されています。

もしかすると地面近くの藪の中で暮らしている鳥の中には嗅覚が発達しているものがあるかもしれません。

しかし、現時点では概ね鳥には嗅覚はほとんどないといえるようです。

※参考文献: 化学と生物 Vol. 49. No. 8. 2011

(左写真: もしかして嗅覚を頼りに採餌しているかもしれないオオバン、旭山未出現種、上野不忍池にて撮影)

## 旭山記念公園昆虫リスト2022年11月現在359種

旭山記念公園で作成している昆虫リスト、今年新たに20種が加わり、計359種となりました。

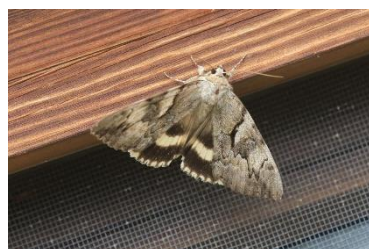
リスト入りした中で目を引くのはウンモンテントウ(写真下左)で、ややレアな種とのことです。

山地に多い蝶ベニヒカゲ(写真下中)、以前不確実な観察情報はありましたが今年しっかりと確認できました。

8月に夜間ライトトラップ昆虫調査を行い、オオシロシタバ(写真下右)など新たに6種がリスト入りしました。

昆虫のリストアップ、今年もアブとハエ類、小蛾類と小ハチ類の同定が難しく、大きな進展はありませんでした。

来年こそは。



**レストハウス「ぽるく」今年度営業は11月13日(日曜日)まで  
噴水運転は10月31日(月曜日)にて終了しました**



## 旭山野鳥メモ④3トビ

トビ Black Kite *Milvus migrans* タカ目タカ科

留鳥。旭山では周年時々見られ5月と夏から秋に観察機会が多いが、旭山周辺では営巣していないと思われる。

平地、丘陵地、海岸近くや農耕地周辺に多い。山地でも開けた場所があればいる。市内では屯田防風林で巣を見かける。

飛翔能力が高く、羽ばたかず上昇気流に乗って帆翔する姿はおなじみだが、よく見ると腰をひねって尾羽の角度を変えながら風をうまく掴んで飛翔していて、これができるタカの仲間はトビだけ。飛翔時に尾羽がM字型に切れ込んで見える猛禽も日本ではトビだけ。

「とんび」の愛称もあるように日本では昔からきわめて身近で、野鳥好きではない人にも知られ、「ピーヒョロロ」という鳴き声も膾炙している。「とんびが鷹を生む」「とんびに油揚げをさらわれる」といった慣用句から、蛸の口の珍味「たことんび」、棒の先が嘴のように尖った道具「とんび」、袖が羽のように広がる外套「とんび」、「鳶職」等「トビ」と名の付くものが身の回りに結構ある。また英語では凧をトビの英名カイト“Kite”という。

最も身近な猛禽類だが、ゴミ処理場に群がったり、残滓をあさったり動きの鈍い生き物を捕まえ餌としたりと威厳がまるでないため「猛禽失格」と悪口を言う人もいる。近年人の食べ物を横取りし人がケガをする事例も全国各地で増えていて、横浜みなとみらいには「トビに注意」の看板が掲げられている。

しかしよく見るとパンダみたいな愛嬌ある顔をしている(気がする...)親しまれている鳥ではある。



## 2022年11月の野鳥トピックス

- ・ツグミ: 園内初認日11月1日は今までで最遅記録です
- ・カケス(亜種ミヤマカケス): 園内でほぼ毎日見られています
- ・キクイタダキ: 見られる機会が増えました
- ・シメ: 去年は少なかったですが今年は昨年よりは多いです
- ・モズ: 「キチキチッ」という「モズの高鳴き」が園内で聞かれています
- ・クマゲラ: 秋になり園内でも時々見られるようになってきました
- ・ヤマゲラ: 「ピョップピョップ」と大声で鳴くようになってきました
- ・アカゲラ: 今年は例年より見る機会が多いです
- ・ミソサザイ: 園内でも見られるようになってきました



## 旭山記念公園2022年の紅葉・黄葉を振り返る



耳毛が伸び始めたエゾリス 10/22



幌見峠の鉄塔 10/17



ハウチワカエデの葉の「しもやけ」10/22



アサダの実 10/30



第1駐車場入口ヤマモミジ 10/25



いちばんきれいなヤマモミジ 10/25



記念樹の森の色づき 10/28



遊具広場のイタヤカエデ黄葉 10/29



公式サイト

「アカゲラ通信」 第107号 2022(令和4)年11月9日発行  
(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所  
<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目  
電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351